

実践算命学基礎レッスン

実践算命学研究会編

このテキストは、2011年1月～2015年1月までFC2ブログに掲載していた「手習い算命学」の内容を加筆して、改めて編集したものになっています。

レッスン内容の説明は、一切変えておりませんが、タイムリーな話題を使っているために、例題に使用させていただいている公人の方達の、役職や、すでに故人になっている方もいらっしゃいます。そのため、あえて、そのままの文面にしていますが、必要な所は追記していますので、ご了承ください。

わずか、4年ほど前の事なのに、かなり世の中のスピードが速い事を実感しています。レッスン内容としては、十干解釈、十大主星解釈、十二大従星解釈、陰占配列の自然図解釈、才能占技、天中殺解釈、結婚の形 etc. になっていますが、ブログの内容にもあったように、「☆ちよっと高度な解釈コーナー」として、高度解釈もそのまま挟んでいます。

尚、宿命の陰陽占は、当方のページ

<http://tenaraisanmei.web.fc2.com/meishiki.html>

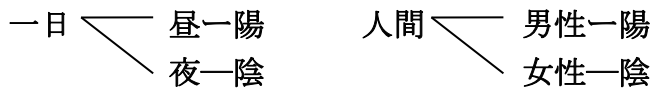
にて、算出できますので割り出す時にお使い下さい。

2015年5月 実践算命学研究会

算命学は、すべての物事を陰陽に分けて考える「陰陽説」と、5種類に分類する「五行説」と言う、二つの理論から出来ています。そのために、どこを切り取っても金太郎アメのように、この「陰陽五行説」が出て来るようになっています。

陰陽説と言うのは、当り前の事を当り前に捉えるだけなのですが、例えば、人間と考える時には、男性と女性がいるのが人間と言うふうに、一極二元論にして1つのものを、陰の質と陽の質の2つに分けて考える訳です。

何にでも当てはまるのでそういう発想をして行く事が勉強の近道になります。



次に、この一極を置いて、陰陽二元に分けたものを「陰の質」と「陽の質」で考えるのですが、一日で考えれば昼は当然明るいので陽、夜は暗いので陰はすぐに分かると思います。これは明るさの明暗を陰陽にしている訳です。

そして、人間と分けた時に男性が陽、女性は陰と言う分け方は何かと言うと、元々の違いとして、凸凹を考えれば、出っ張っているのが陽で引っ込んでいるのが陰でもよいし、男性を能動的で女性を受動的と言うふうに気質で分けても良い、と言うふうに、この陰陽の対比はたくさん出て来ます。

そうすると、物事と言うのは、この陰と陽の関係と言う、2種類があるから存在出来る訳です。元々人間でも、男性と女性がいたから生まれて来ますから、もし男性だけしか居ない、女性しか居なければ「人間」と言う言葉もいらぬですね？

当然、一日と言うのも、地球が自転しながら太陽の周りを回っている事によって出てくる訳ですから、一日中昼だけでも、夜だけと言うのもない訳です。そして、「五行説」の方はどう考えるかですが、これは、「5」と言うものを考えてみると、一番大きな分類として、地球上に存在している成分を考えると、木性、火性、土性、金性、水性の5種類に分けられます。そのために、五行説と言うのは、木火土金水（もっかどこんすい）と言って、常に出てくる言葉になります。

これも、普通は、当り前すぎて深く考えて居ないものなのですが、例えば、人間の手や足の指は5本ですし、臓器を考えても、五臓六腑と言うふうに、昔から普通に使っている訳です。

「首」を考えても、胴体と頭を繋ぐ首が1つ、手首が2つ、足首が2つで5つ。人間が何かを感じるための器官は、目、耳、鼻、口、手によって、視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚の五器官で、感じる訳ですね？

これは、五行諸類考と言って、それぞれを五感にしろ、五色にしろ、すべてを分類して行く事になって行きます。

余談ですが、この数字にも意味がたくさんありますが、元々、「5」と言う数字はこの世で生きている間に使う数字になっていて、亡くなった人を弔う時には、三回忌、七回忌、とかその倍数の時に行いますが、五回忌や十回忌と言うのはありません。

そこで、今度は「陰陽五行説」ですから、この陰と陽に分ける発想と、物事を五種類に分類する形を重ねて見ると、木性にも陰と陽があり、火性にも陰陽、土性、金性、水性にも陰陽と言うふうに、それぞれの質を5種類に分けて、さらにそこを陰陽に分類します。

まずは、ここまでです。
それぞれの五行の分類は個別にやって行きましょう。

☆実践算命学・基礎レッスン2 2011-01-30 ☆

木性	陽	樹木	火性	陽	太陽	土性	陽	山岳
	陰	草木		陰	ともしび		陰	田園

金性	陽	岩石	水性	陽	海・大河
	陰	小石		陰	雨・霧・露

陰陽五行論の続きを入れましょう。今回は「木性」の説明からです。地球上に存在しているものは、木性火性土性金性水性の質に分けられる事から、木性ならば樹木と言う形で、松の木や桜の木、杉の木などのような、「木」を陽の質として、さらにそれに対して、草木を陰の質に分けます。

そのために、この草木の中には、お花は当然ながら、ツタやツル、苔なども陰の木性の植物に分類します。ですから、植物を陰陽に分ける時には、単純に言うと陽の方が大きい・高いと考えれば、陰の方は小さい・低い訳です。

次に、ここに「甲乙丙丁戊己庚辛壬癸」という符合を付けます。読み方は、日本語読みにすると、甲=きのえ、乙=きのと、丙=ひのえ、丁=ひのと、戊=つちのえ、己=つちのと、庚=かのえ、辛=かのと、壬=みずのえ、癸=みずのと・・・と言うふうに、それぞれの五行の質に対して、「え」と「と」を付けて言うので、これを「エト」と言う訳です。

算命学では、この読み方を、甲=こう、乙=おつ、丙=へい、丁=てい、戊=ぼ、己=き、庚=こう、辛=しん、壬=じん、癸=き、と言います。

さらに、最初から、五行の質の木火土金水を、そのまま下に付けて甲木、乙木、丙火、丁火、戊土、己土、庚金、辛金、壬水、癸水、とくっつけて言いますから、同じ読み方をする、甲と庚も己と癸も違いが分ると思います。

これを「十干」と言いますが、これは、元々、それぞれの、五行の質をさらに陰陽に分けているために、 $5 \times 2 = 10$ 種類の符合になる訳です。

木性 甲木 陽 樹木
乙木 陰 草木

そこで、まず「木性」の説明ですが、こう言うふうに、陽の樹木の方を、甲木（こうぼく）と言う符合を当てます。最初から木性なので、コウにたいしてボクと繋げて居るので、すでに、甲と言うのは木性と言う事がわかる訳です。

それに対して、木性の植物の中でも陰の質の、草木や草花などを表す方には乙木（おつぼく）と言う符合を当てます。

今度は、これを例題を使って実際に使ってみましょう。陰占となっている左側の所の宿命の「陰占」を使います。これも、すべてが陰陽論ですから、「占い」と分けて、陰の占い、陽の占いと言う中の、「陰占」になる訳です。

陰占				陽占			
	甲	己	壬		調舒星	龍高星	天馳星
辰	午	酉	甲	戌	調舒星	牽牛星	車騎星
巳	丁	辛	庚		天極星	司祿星	天報星
	己		戌		詳細		
			壬				

by—Jissen sanmei soft

甲 ○ ○
○ ○ ○

この図は、生年月日から割り出した宿命図ですが、この「陰占」の中の、この太字になって居るところを見ます。ここは「日干」と言って、その人の持って生まれた気質を自然の姿に置き換えて居る訳です。そのために、この日干を「心」と置き換えると分かりやすいのですが、そうすると、この例題の日干は、甲木ですから、自然界に置き換えれば、樹木の質の「心」を持っている人だと言う事になります。

そこで、樹木と言うのは、どう言う気質なのか？と考える訳です。まず、樹木と言うものは、土の上で育って行く訳ですから、根っ子がある土の場所からは動けない状態です。そして、そこから上へ上へと毎年毎年、年輪を刻みながら大きくなって行きますから、甲木のキーワードは「直上」と言って、まっすぐ上に上にと伸びる姿を、代表的なキーワードに置きます。

そして、それを持つ日干の「心」として気質に置き換えれば、まっすぐとか、ストレート、一本気、純粹、単純・・・と言うふうに、樹木をそのまま連想して、それがその人の気質と考えます。

この例題の人物は、石原慎太郎さんです。この人は、齒に衣着せぬ言動で物議をかもしやすい方ですが、日干甲木のイメージが繋がりますね。ですから、よく言えば純粹とか素直、又は、案外単純な心を持っているという事になります。表現としては、キーワードを外さなければ、自由にイメージして良いのです。と言う事は、ここでは公人を例題に使っていますが、同じ生年月日の方も同じように、生まれつきの気質は似ている訳です。

木性 甲木 陽 樹木
乙木 陰 草木

今回は、五行に対して、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸の10種類の符合を付ける、
と言うお話の続きです。

木性は甲木が陽の質、乙木が陰の質と言う事でしたね？

この陰と陽の関係は、陽が男性的、陰が女性的と分けても良いし、
陽が積極的、陰が受動的、分量で考えても、陽が大きいとか多い、陰が小さい
とか少ないと言うふうに、すべてを対比させて考えます。

そのために、「甲木」は樹木として、「乙木」を草木や草花に分ける事で対比
させた訳です。

そこで、この草木を考えてみると、これはユリの花やバラの花などの花の咲く
草はもちろんです、あらゆる植物を、この陰と陽の種類に分ける訳ですから、
雑草も入るし、コケやシダやツルやツタ等と言うふうに、甲木の樹木に対して、
低い植物や小さい植物がすべて乙木に入る事になります。

次に、この質の違いを特徴や質の違いから考えて行くと、樹木はまっすぐ
上にしか伸びられないために、

「直上」と言うキーワードで代表させているのに対して、この乙木の草木の方
は、「曲直」と言う言葉で代表させます。

これは、雑草を考えてみると分かるように、樹木が天に向かい真上に伸びるの
に対して、草は横広がりにもニョキニョキと伸びて行けるシツタのように樹木
に絡まって上に上にと伸びる事も出来ますね？

そしてアスファルトがあれば、そこを避けて他の場所からでも芽を出せる
ように、直だけではなくて、曲の質を持って居ます。

そのために、甲木の樹木ならば幹の本体を切られると生きて行けなくなるの
とは違い、草と言うのは、踏まれても踏まれても、どっこい根っ子さえ残って
居れば、再度立ち上がれるという所から、しぶといとか、柔軟性があると言う
ように、草木の質も、そのまま気質として捉えます。

この柔軟性と言うものも、良く言えば、発想が自由だとか、臨機応変に対応出来ると言う事になる訳ですが、反対に言えば、あっちにもこっちにも手を出して、結果的には迷ってしまうと言うふうに、優柔不断だったり、しつこいとも言えます。

さらに、この草の特徴としては、群れると言うものがあります。

良く考えてみれば、樹木と言うのは、一見、林や森になっていても、実際には木々自体は単体で生えているのに対して、草と言うのは、芝生を考えれば分かるように、芝生は一本だけが生えて居ても、ゴルフは出来ないように、たくさんある、群生する事で価値がある訳です。

お米も麦も、1つぶではご飯にも、パンにも出来ません。

そのために、周囲と和合するとか協調性があると言う形も、乙木の気質として考えます。そう言う質の違いから、五本能に分けて、甲木が守備本能の陽で単独の守り、乙木は守備本能の陰として集団の守りと分けます。

ですから、乙木は組織を作るとかグループを作り、共通の目的や意識を持つ人達と、集団で何かを守ろうとします。

そこで、有名人を探してみると、乙木日干の方は、結構多いようですが・・・

陰占					陽占		
	乙	戊	丁		玉堂星	鳳閣星	天馳星
子	卯	甲	酉	辰	貫索星	司禄星	車騎星
丑	乙	戊	辛	巳	天禄星	司禄星	天報星
		壬			詳細		
		庚					

by—Jissen sanmei soft

こちらは、ソフトバンクの孫正義さんです。日干が乙木ですから発想に柔軟性があり、粘り強い気質を持っている事がわかります。

☆ちょっと高度な解釈コーナー

乙 ○ ○

卯 ○ ○

この配列は、乙木日干の下には、「卯」がありますが、これは「うぼく」ですから、この十二支も木性の質になっています。

こう言うふうに、十干に対して、十二支の方も同じ五行の質がある形を、根っ子がある、と言って、しっかりとした支えを持っている干支と考えます。

東方と中央には申酉の金性があり、表面的にはチャレンジ精神旺盛で、攻撃的な行動力を見せますが、日干支は天禄星ですから、本質的には非常に手堅い、守りの気質を持っている訳です。

まさに、守るも攻めるも両方を持っている方と言う訳ですね。

☆実践算命学・基礎レッスン4

2011-02-01

火性 丙火 陽 太陽
丁火 陰 ともしび

十干の説明の今回は火性からです。

火性は何と言っても太陽系の惑星の地球から考えて、最大の火性は太陽です。そこで、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸の符合の中の「丙（へい）」をここに当てて、丙火（へいか）になります。

これは日本語読みにすれば、ひのえと言う事ですが、火性のイメージの通りに、明るいか暖かいというのが、火性の陽の丙火になりますから、そのままキーワードは明暖（めいだん）になります。

それに対して、丁火（ていか）の方は、火性の陰の質に当たるものが含まれる事になりますが、これは、マッチの火やろうそくの火のように、そのまま「火」が丁火になります。ですから、火性の陽が天然の火力なのに対して、陰の方は人工的な火になります。

そうすると、この火の質を考えれば、太陽のように圧倒的な広い範囲を照らすのとは対照的に、お燈明の火のように、周囲が暗いほど神々しく引き立つために、丁火のキーワードは孤明（こめい）と表します。

ここに気質を当てはめて行くと、丙火は誰にでも広く公平に照らすと言う大きさがあるし、何よりも自然体な気質を持っています。

さらに太陽の動き方と言うのは、常に動いていて、じっとしていないと言う事から、ジプシーのように定住に拘らないという場合もあります。

ただし、太陽は常に軌道からは逸れないために、常に一定のルートからは離れない動き方もする訳です。

そして、ともし火に当たる、陰の火性の丁火を考えると、これは、暗い中で狭い範囲内を照らす明かりですから、個人主義的なイメージでもあるし、何と言っても、太陽のようにあつけらかなのイメージから対比させれば、気難しさを持っています。

しかし、この炎も最初は小さい炎であっても、それが山火事にまでなる恐れもある訳ですから、周囲に対しての影響力があるとも言えるし、また、火山の噴火や、油田の噴き出す勢いまで含めると、内に秘めたるエネルギーは大きなものを持つとも言えます。

こう言うふうに、説明しているのは、あくまでも自然界の中のそれぞれの存在を出来るだけ、自由に発想して欲しいからなのですが、算命学の勉強は1つ1つの言葉を暗記するのではなくて、何にでも当てはめられるように、体感して欲しいのです。

ですから、丁火の質を、そのまま気質で考えれば、カッとし易い、でも良いし、神経質とか、繊細などと当てても、それは自由なのです。実際にも丁火の質は芸術家には必須の感性を所有しているという事でもあります。

丙火日干を持っている人を探してみると、

陰口		陽口		
子	丙辰	乙酉	乙丑	戌亥
丑	乙酉	辛酉	癸酉	辛巳
	癸巳		己巳	
	戌		己巳	
		禄存星	玉堂星	天印星
		玉堂星	司禄星	牵牛星
		天南星	玉堂星	天極星
		詳細		

by—Jissen sanmei soft

この宿命は、上戸彩さんです。イメージ出来ますか？何となく天然ぽいようなムードで、暖かさを感じますね。そして、太陽は万物を育む訳ですから、かなり尽くし型の方なんでしょうね。

☆ちよつと高度な解釈コーナー

この配列は酉月生まれの秋の太陽ですから、西日の光になります。そのために火力的には真夏の最高に強い陽光からみると、沈む夕日になります。そのために、この西日の特徴としては、地平線に沈む夕日は一番大きく見えて、非常にきれいな姿になるために、秋生まれの丙火は、実力以上に大きく見えるし、又、自分を大きく見せるために外飾と言っておしゃれな質を持ちます。

こう言うふうに、日干の質を考えたら、次には、何月生まれなのか？と言う月支元命で捉えて行く訳です。日干と月支を（げっしげんめい）と言います。ですから、同じ太陽でも、真夏の天将星が出て来るキラキラとした強い陽光の太陽の人ならば、ずっといたら暑くて居られませんね。

更に、冬生まれの丙火ならば、日なたぼっこの太陽ですから、茫洋として
いるけれども暖かい人、と言うふうに、そのままの質を考えます。

丁火日干の人を探してみると、

陰占					陽占		
	丁	乙	癸		調舒星	車騎星	天報星
寅	未	卯	亥	子	鳳閣星	龍高星	牽牛星
卯	己	乙	壬	丑	天南星	龍高星	天胡星
	丁		甲		詳細		
	乙						

by—Jissen sanmei soft

この宿命は人形作家の与勇輝さんです。彼の作品の繊細なお人形さんはまさに
丁火の感性から出来て居るイメージですね。

丁火日干の方は、非常に繊細な心を持っているのが特色です。

☆実践算命学 基礎レッスン5

2011-02-07 ☆

今回は、土性の説明からです。

土性 戊土 陽 山岳

己土 陰 田園・街

土性は、まさに人間が生活している大地の土を意味していますが、その中を
陽の土性は、戊土（ぼど）で山岳として、陰の土性を己土（きど）の田園や
田畑に分けます。これは高さで考えると、当然高い土地が山になるのに対して、
己土の方は、平地もすべて入ります。そのために、町や村などのように平らな
土を考えます。

陰陽の対比としては、高い土と低くて平らな土ですし、分量も多い方が戊土で、
少ない方が己土になる訳です。戊土のキーワードは「不動」で、

己土のキーワードは「広平」です。

山と言うのは、あくまでも堂々と聳え立つ事に意味があり簡単にチョロチョロ
しては、価値が下がる訳です。

それに対して、己土の方が広平と言うのは、広くて平らと言う事ですが、
これは、平らな土地と言うのは、人間が生活しやすいように、必ず平らな
土地にするように、広くて見通しのよい形が良い訳です。そして、生活のため
の糧としては、その平らな土地に作物を植える訳ですから、ここには、田んぼ
も畑も入ります。